

## 最高速度試験

### 1. 総則

最高速度試験の実施にあたっては、本規定によるものとする。

### 2. 試験条件

試験自動車は積車状態とする。試験路は平坦かつ水平な直線乾燥舗装路とし、測定は風速が5m/s以下のときに原則として往復実施してその平均値をとる。

### 3. 試験方法

3.1 試験路には、長さは適当な距離を有する舗装路を選び、200mを測定区間とし、測定区間の両端を助走区間とする。測定区間には100mごとに標点を設けることとする。

なお、電子式速度測定器による場合は測定区間を1～3mとして測定してもよい。

3.2 助走区間において試験自動車を加速走行し、測定区間に達するまでに最高速度を保持させることとする。

3.3 測定区間における第1及び第2標点間ならびに第1及び第3標点間を走行するのに要する時間（ただし測定区間を1～3mとした場合はその区間を通過するのに要する時間）を測定し、最高速度を求める。

### 4. 試験記録及び成績

試験記録及び成績は、付表の様式に記入する。

4.1 当該試験時において該当しない箇所には斜線を引くこと。

4.2 記入欄は、順序配列を変えない範囲で伸縮することができ、必要に応じて追加してもよい。

4.3 測定単位は秒とし、原則として小数第2位まで測定する。ただし測定区間を1～3mとした場合は小数第4位まで測定する。

4.4 速度は小数第1位まで算出する。

4.5 平均値は小数以下を四捨五入する。

4.6 最高速度は第1及び第2標点間と第1及び第3標点間のそれぞれの速度の平均値の大きい方を記入する。

4.7 最高速度域における動力伝達装置、操縦安定性の状況等についての異常の有無を観察しておく。

付表

最高速度の試験記録及び成績

車名・型式(類別)	試験期日	年	月	日
試験時車両総重量	kg	試験場所		
変速比	路面の状況			
減速比	助走距離			m
タイヤの呼び	天候			
使用燃料	風向	風速	m/s	
	試験担当者			

試験回数	走行向	標点	測定距離 m	所要時間 s	速度 km/h	備考
平均						

最高速度 \_\_\_\_\_ km/h

観察結果 \_\_\_\_\_

備考 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_